

平成28年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省28—21)

別紙1

施策名	5-1.基盤的施策の実施及び国際的取組				担当部局名	自然環境局 自然環境計画課 野生生物課 生物多様性センター	作成責任者名 (※記入は任意)	自然環境計画課長 奥田 直久 野生生物課長 植田 明浩				
施策の概要	生物多様性国家戦略を始めとする自然環境保全のための政策の策定、及びそのために必要な情報の収集・整備・提供を行う。また、国際的枠組への参加等を通じて地球規模の生物多様性の保全を図る。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進						
達成すべき目標	生物多様性国家戦略2012-2020に基づき、各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。また、国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る。				目標設定の考え方・根拠	生物多様性国家戦略2012-2020	政策評価実施予定時期	平成29年6月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値						測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度			
1 「生物多様性」の認識状況	30%	16年度	75%	平成31年度	-	-	-	-	-	-	75%	生物多様性国家戦略2012-2020において、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する行動計画の横断的・基盤的施策の一つとして「生物多様性の主流化の促進」を掲げており、その数値目標として、同測定指標を用いているため。
2 生物多様性地域戦略策定済自治体数(都道府県)	18都道府県	23年度	47都道府県	平成32年度	-	-	-	-	-	-	-	生物多様性国家戦略2012-2020において、おおむね平成32年度までの間に重点的に取り組むべき施策の方向性を示した基本戦略の一つとして「生物多様性を社会に浸透させる」ことを掲げており、地方公共団体による生物多様性地域戦略の策定を促進していく際の数値目標として、同測定指標を用いているため。
3 生物多様性国家戦略2012-2020に定める我が国の国別目標の関連指標の改善状況	-	22年度	100%	平成32年度	-	-	-	-	-	-	-	生物多様性に関する国際的な目標である愛知ターゲットの達成にむけて、わが国の生物多様性国家戦略2012-2020において国別目標及び関連指標を定めている。この関連指標の状況が、施策の進捗状況を測定するための指標として適切であるため。
4 全国の1/2.5万地形図面数に対する植生図整備図面数の割合[整備図面数/全国土図面数]	国土の35%	平成18年度	100%	平成32年度	69%	72%	77%	80%	-	-	-	生物多様性国家戦略2012-2020等において、国土の自然環境の基本情報図である縮尺1/2.5万植生図については、平成32年までに国土の可能な限り広い面積を整備するなど早期の全国整備を進めるとしている。そのため、今後も需要が多い地域を中心に、整備を進める必要があるため。
測定指標	目標		目標年度		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠							
5 生物多様性保全に係る必要な国際的取組の状況	生物多様性保全のための国際的な取組の推進		-		各国の愛知目標達成に向けた取組の推進を促進するとともに、国際的な枠組みに参加しリーダーシップ・パートナーシップを発揮・構築することで、地球規模の生物多様性保全に寄与するため。							
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する指標	達成手段の概要等	平成28年 行政事業レビュー 事業番号					
	25年度	26年度	27年度	28年度								
(1) 国際分担金等経費(昭和54年度)(関連:28-22、28-23)	277百万円 (277百万円)	254百万円 (254百万円)	261百万円 (258百万円)	261百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性条約事務局に専門家を長期派遣し連絡調整を図るとともに、生物多様性日本基金の運営管理を通じて、愛知目標の達成に向けた取組を推進する。</li> <li>SATOYAMAイニシアティブの事務局である国連大学に抛出し、同イニシアティブを推進するための国際パートナーシップの運営や優良事例の分析、SATOYAMAイニシアティブを具現化する各国でのパイロットプロジェクトの実施及び複数のIPSIメンバーが協力して行う協力活動を推進する。</li> <li>南極条約事務局に抛出し、南極条約協議国会議の取りまとめ・運営を実施する条約事務局を支援することにより、南極地域の環境保全に対する国際的な貢献と連携の確保に資する。</li> </ul> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>愛知目標達成に向け、各国の国家戦略の策定・改定を進めるため、個別の技術支援・助言や、情報共有・発信を目的としたウェブサイトの運営を通じて、きめ細やかな支援を実施する。</li> <li>SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップの参加団体数を増加させるとともに複数メンバーによる協力活動を推進する。</li> <li>南極条約事務局における会合等の運営及び支援、協議会間の情報交換及び連絡、文書の作成及び翻訳が適切に行われるよう推進する。</li> </ul> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各国の愛知目標達成に向けた取組が促進されるとともに、我が国の生物多様性分野での国際的なリーダーシップの発揮と国際的なパートナーシップの強化が期待される。</li> <li>SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップの参加団体数を増加させることで取組の裾野を広げるとともに、協力活動を推進することで生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた現場の取組が強化される。それにより、施策の達成すべき目標である「国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る。」に貢献する。</li> </ul>	178					

(2) 生物多様性センター維持運営費 (平成10年度)	70百万円 (69百万円)	82百万円 (59百万円)	95百万円 (84百万円)	94百万円	1	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性センターの維持運営に必要な施設維持管理を行う。</li> <li>・文献等の資料、動植物標本及び生物多様性情報を収集・管理・提供する。</li> <li>・生物多様性の保全に関する普及啓発を実施する。</li> </ul> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <p>適切な施設の維持・運営、文献・標本・生物多様性情報等の収集・管理等、生物多様性の保全に関する普及啓発を行う。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <p>施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。</p>	179
(3) 自然環境保全基礎調査費 (昭和48年度)	199百万円 (195百万円)	192百万円 (180百万円)	191百万円 (189百万円)	201百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <p>1/2.5万植生図の整備、人間活動や開発等による生態系の変化状況の把握等、自然環境に関する全国的な基盤情報データを着実に蓄積する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <p>全国の1/2.5万地形図面数に対する植生図整備図面数の割合:国土の約80%</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <p>施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。</p>	180
(4) 地球規模生物多様性モニタリング推進事業費 (平成15年度)	381百万円 (367百万円)	335百万円 (347百万円)	335百万円 (315百万円)	335百万円	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <p>国内の各生態系の調査サイトにおけるモニタリングの実施、データを整理・発信する。東・東南アジア地域の生物多様性情報の整備、分類学能力構築のための研修を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <p>モニタリングサイト1000調査を継続実施する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <p>施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。また、国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る。」に寄与する。</p>	181
(5) 地球規模生物多様性情報システム整備推進費 (平成6年度)	94百万円 (90百万円)	112百万円 (114百万円)	112百万円 (113百万円)	103百万円	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <p>生物多様性情報システム(J-IBIS)等を引き続き整備し、WebGIS技術を用いた提供を行うなど生物多様性保全に係る情報の利活用を推進する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <p>J-IBISの機能及び提供情報を拡充する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <p>施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。</p>	182
(6) 生物多様性基本施策関係経費 (平成20年度)	36百万円 (34百万円)	38百万円 (30百万円)	38百万円 (37百万円)	38百万円	1.2.3	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性条約第10回締約国会議(平成22年10月名古屋で開催)で採択された愛知目標の達成に向け、平成24年9月に閣議決定された生物多様性国家戦略2012-2020に基づき生物多様性関連施策の着実な推進を図る。生物多様性条約第12回締約国会議(COP12)において実施予定の愛知目標の達成状況に関する中間評価の結果を踏まえ、「生物多様性国家戦略2012-2020」進捗状況を確認した上で、同戦略の取組をさらに加速するための方策を検討する。</li> <li>・生物多様性の状況に関する調査分析を行い、生物多様性基本法に基づく生物多様性白書を作成する。</li> <li>・生物多様性保全のための気候変動への適応策の検討のため、手法の評価・検証を行う。また、適応策の一つとして、自然生態系の有する機能を生かした防災・減災対策の基本的な考え方の普及を図る。</li> </ul> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性基本法第10条に基づき、毎年、生物多様性の状況及び政府が生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関して講じた施策に関する報告(生物多様性白書)を作成し、政府刊行物として市販及びweb掲載により、生物多様性の現状について国民に周知する。</li> <li>・生物多様性条約第6条及び生物多様性基本法第11条に基づき平成24年9月に策定された生物多様性国家戦略2012-2020の着実な実施に向け、生物多様性関連施策の一層の展開を図る。</li> </ul> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性国家戦略は、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国の基本計画であり、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全に関する施策実施の根拠となることから、同戦略の取組を加速させることは、施策の達成すべき目標である「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める」ことに寄与する。</li> <li>・年次報告は広く国民にも読まれるため、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発」に寄与する。</li> </ul>	193

<p>(7) 「国連生物多様性の10年」推進事業費 (平成23年度)</p>	<p>21百万円 (17百万円)</p>	<p>17百万円 (17百万円)</p>	<p>16百万円 (16百万円)</p>	<p>15百万円</p>	<p>1</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 「国連生物多様性の10年日本委員会」を主要なセクターの参画を得て設立し、各セクターや地域における取組のサポート、セクター間の連携促進、国民的理解と参画の増進、生物多様性国家戦略改定へのインプット、他国の委員会とのネットワークを構築する。 &lt;達成手段の目標&gt; ・愛知目標の達成に向け、各セクター間の情報交換を目的とした全国ミーティングや地域フォーラムの開催、委員会が推奨する連携事業の認定、生物多様性の認知度向上のための普及啓発ツールの作成等を実施する。また、これまでの成果と課題をとりまとめた中間評価をふまえ、後半5年の目標と取組をまとめたロードマップを作成する。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; ・「国連生物多様性の10年日本委員会」の事業を実施・推進することで、「生物多様性」に関する国民的な認知度向上、理解増進につながる。このことは、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。 ・生物多様性に関する各セクターの取組を後押しすることで、生物多様性の保全と持続的な利用を促進し、生物多様性を社会に浸透させることにつながる。このことは、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。</p>	<p>183</p>
<p>(8) 中間評価をふまえた愛知目標達成方策検討調査費(平成24年度:愛知目標の実現に向けたCOP10主要課題検討調査費)(平成23年度:ポスト2010年目標の実現に向けたCOP10主要課題検討調査費)</p>	<p>72百万円 (73百万円)</p>	<p>54百万円 (58百万円)</p>	<p>50百万円 (47百万円)</p>	<p>45百万円</p>	<p>3</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; ・生物多様性国家戦略に掲げた名古屋議定書の締結に向けた国内措置の具体的な検討を実施する。 ・経済社会における生物多様性の保全と持続可能な利用の主流化を図るべく、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた事業者の取組に関する情報収集・発信を行い、経済社会における生物多様性の保全等の促進方策を検討する。 ・国内の自然保護地域や自然環境保全施策により保全される生物多様性が有する経済的価値評価を実施する。 &lt;達成手段の目標&gt; ・名古屋議定書に対応する国内措置案を策定する。 ・「生物多様性民間参画ガイドライン」や「生物多様性に関する民間参画に向けた日本の取組」の普及による事業者の取組の促進や事業者団体の取組支援を行うほか、策定から約7年が経過する同ガイドラインについては、有識者、事業者等の意見を聞きつつ改訂の検討を行う。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; ・国内措置案を策定することで名古屋議定書を締結し、議定書の実施に貢献する。 ・個々の事業者によるサプライチェーンも考慮した自主的な取組の促進を図るとともに、事業者間及び多様な主体間の連携・協働を促進することにより、民間部門における自発的な生物多様性の取組が推進され、自然環境の保全に寄与する。このことは、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。 ・生物多様性が有する価値を経済的な評価により可視化し、評価結果等を活用して生物多様性の重要性についての普及広報等を推進することで、生物多様性の主流化に貢献する。このことは、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。</p>	<p>184</p>
<p>(9) 生物多様性及び生態系サービスに関する科学政策プラットフォーム推進費(平成25年度)</p>	<p>36百万円 (28百万円)</p>	<p>31百万円 (20百万円)</p>	<p>45百万円 (44百万円)</p>	<p>55百万円</p>	<p>3</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; ・生物多様性と生態系サービスの評価等に関する調査を行う。 ・既存の観測データ、調査結果の収集を行う。 ・日本人専門家をIPBESの総会、学際的専門家パネル会合、タスクフォース及び専門家グループ会合、地球規模生物多様性情報機構(GBIF)の会議へ派遣し、報告書作成の支援を行うことにより、我が国の知見をインプットするとともに国際的な検討に貢献する。 &lt;達成手段の目標&gt; ・生物多様性と生態系サービスの評価等に関する調査を報告書にまとめる。 ・既存の観測データ、調査結果の収集を行う。 ・IPBES作業計画2014-2018の成果物(成果文章)が計画に則り作成され、IPBES総会にて承認・公表される。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; ・評価及び予測結果について広く広報や啓発を行うことにより、生物多様性・生態系サービスと暮らしのつながりについての理解を深め、生態系等の重要性が認識され保全や持続可能な利用に向けた取組の一層の推進を図ることで、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発」に寄与する。 ・生物多様性及び生態系サービスに関する科学政策プラットフォーム(IPBES)等に対して、科学的評価や生物多様性情報等のサブスタンスに係るインプットを積極的に行い貢献し、「国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る」ことに寄与する。</p>	<p>203</p>
<p>(10) アジア太平洋地域生物多様性保全推進費(昭和57年度)</p>	<p>52百万円 (50百万円)</p>	<p>63百万円 (54百万円)</p>	<p>83百万円 (74百万円)</p>	<p>66百万円</p>	<p>5</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; ・アジア・オセアニア地域において国際サンゴ礁イニシアティブ(ICRI)の活動を主導し、サンゴ礁生態系のモニタリング及び管理向上を目指す。 &lt;達成手段の目標&gt; ・アジア・オセアニア地域のサンゴ礁生態系モニタリングの体制構築のために必要な情報収集、合意形成プロセスを進める。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; ・国際的なサンゴ礁保全のための唯一の国際枠組みであるICRIの推進により「国際的枠組みへの参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全」に寄与する。</p>	<p>186</p>

(11)	森林・乾燥地・極地保全対策費(「熱帯林等森林保全対策調査費」及び「南極地域自然環境保全対策費」の統合) (平成23年度)	37百万円 (34百万円)	35百万円 (24百万円)	35百万円 (33百万円)	30百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の森林の保全及び持続可能な経営、砂漠化/土地劣化対処に関する住民参加の取組の促進に向けた普及啓発を実施する。</li> <li>南極地域の環境保全に関する国際的枠組みの遵守とその発展に向けた自然資源の総合的な保全・管理を担保する。</li> </ul> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の森林の持続可能な利用と生物多様性の保全を図るためのガイドライン・プラットフォームの更新を実施。また、砂漠化/土地劣化に対処するため、乾燥地における持続可能な牧草地管理のための住民参加による計画・管理モデルの普及浸透を図り、国内でも有識者による検討を行う。</li> <li>南極地域の環境実態把握モニタリングの実施、南極環境保護議定書附属書VIへの対応の継続、南極特別保護地区等の変更に対する国内担保措置、南極環境保護法に基づく手続きやその変更の更なる周知徹底を行う。</li> </ul> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の森林の保全及び持続可能な経営の推進方策の検討及び砂漠化対処手法の検討調査等を実施し、生物多様性条約、国連森林フォーラムや砂漠化対処条約等の国際的取組の進展に積極的に貢献することで、世界の森林地域及び乾燥地域における生物多様性の保全等に寄与する。</li> </ul>	187
(12)	アジア保護地域イニシアティブ構築推進事業 (平成25年度)	96百万円 (92百万円)	34百万円 (32百万円)	32百万円 (18百万円)	32百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <p>我が国を含むアジアにおける保護地域の管理水準の向上のため、第1回アジア国立公園会議(平成25年11月、仙台市)や第6回世界国立公園会議(平成26年11月、オーストラリア)の成果を踏まえ、我が国がリーダーシップを発揮してアジアにおける保護地域に係る連携のための枠組みを構築し、こうした枠組みに基づき国立公園等の保護地域の管理手法等に関する情報共有や能力開発等の事業を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <p>我が国を含むアジアにおける愛知目標の達成を含めた生物多様性条約に基づく取組の推進に資するため、アジアにおける国立公園等の保護地域に係る連携のための枠組みを構築し、保護地域の管理水準の向上を目指す。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <p>各国の愛知目標達成に向けた取組が促進されるとともに、我が国の生物多様性分野での国際的なリーダーシップの発揮と国際的なパートナーシップの強化を図ることにより、施策の達成すべき目標である「国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る。」に貢献する。</p>	189
(13)	地域における対策・活用推進のための要注意鳥獣等(クマ等)監視業務 (平成27年度)	-	-	30百万円 (20百万円)	30百万円	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生態系や農林水産業などへの被害が基大化している要注意鳥獣(クマ等)などについて生息状況調査を実施し、今後の生息分布の予測を実施。</li> <li>鳥獣対策等に資するため、住民や各種団体並びに専門家による監視体制を構築し、地域における鳥獣の状況を把握し、新たな異常を早期に観測する。</li> </ul> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <p>要注意鳥獣(クマ等)6種の生息情報を収集し、分布状況を明らかにし、公開する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <p>施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。</p>	190
(14)	生物多様性保全推進支援事業 (平成20年度)(関連:28-22)	191百万円 (169百万円)	130百万円 (121百万円)	75百万円 (74百万円)	75百万円	2	<p>&lt;達成手段の概要&gt;</p> <p>地域における生物多様性の保全・再生(国内希少野生動植物種等対策、特定外来生物防除対策、生物多様性保護地域保全再生)に資する先進的・効果的活動を支援する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;</p> <p>国の生物多様性の保全上重要な地域における保全活動を実施する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;</p> <p>本達成手段は地域における生物多様性の保全・再生(国内希少野生動植物種等対策、特定外来生物防除対策、生物多様性保護地域保全再生)に資する活動を推進するものであり、施策の目標の達成に直接的に貢献する。</p>	192
施策の予算額・執行額		1,562百万円 (1,495百万円)	1,377百万円 (1,310百万円)	1,398百万円 (1,331百万円)	1,378百万円	<p>施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)</p> <p>生物多様性国家戦略2012-2020(平成24年9月28日 閣議決定)</p>		

平成28年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省28—②)

別紙1

<p>施策名</p>	<p>5-2.自然環境の保全・再生</p>				<p>担当部局名</p>	<p>自然環境局 自然環境計画課 野生生物課 国立公園課</p>	<p>作成責任者名 (※記入は任意)</p>	<p>自然環境計画課 奥田 直久 野生生物課長 植田 明浩 国立公園課長 岡本 光之</p>			
<p>施策の概要</p>	<p>原生的な自然及び優れた自然の保全を図り、里地里山などの二次的な自然や藻場・干潟等についてその特性に応じた保全を図るとともに、過去に失われた自然を積極的に再生する事業を推進することで、自然環境の保全・再生を図る。</p>				<p>政策体系上の位置付け</p>	<p>5.生物多様性の保全と自然との共生の推進</p>					
<p>達成すべき目標</p>	<p>・原生的な自然環境、里地里山などの二次的な自然、干潟などの生態系を地域の特性に応じて保全、維持管理する。 ・国内の世界自然遺産登録地について、世界遺産として認められた価値を将来にわたって保全するため順応的な保全管理を推進するとともに、国内候補地の新規登録を目指す。 ・過去に損なわれた自然について、地域の多様な主体による自然再生の取組を支援することで、自然環境の保全・再生を推進する。 ・生物多様性保全について先進的・効果的な取組を支援することで、今後の保全活動の推進に繋げる。 ・自然状況や社会状況、風景評価の多様化等の変化をふまえ、国立・国定公園の区域及び公園計画について、着実に見直しを行い、適切な保護管理を行う。</p>				<p>目標設定の考え方・根拠</p>	<p>生物多様性国家戦略2012-2020 自然再生推進法 自然公園法 生物多様性地域連携促進法 自然環境保全法</p>	<p>政策評価実施予定時期</p>	<p>平成29年6月</p>			
<p>測定指標</p>	<p>基準値</p>	<p>目標値</p>	<p>年度ごとの目標値 年度ごとの実績値</p>				<p>測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠</p>				
<p>1 自然再生協議会の数</p>	<p>25</p>	<p>H.27 33</p>	<p>基準年度 H.32</p>	<p>24年度 24</p>	<p>25年度 25</p>	<p>26年度 25</p>	<p>27年度 25</p>	<p>28年度 /</p>	<p>29年度 /</p>	<p>30年度 /</p>	<p>生物多様性国家戦略2012-2020において、「自然再生の着実な実施」を掲げており、その数値目標として用いていた指標を踏まえて設定しているため。</p>
<p>2 当該年度を終期とする国立・国定公園の点検等見直し計画の達成率</p>	<p>-</p>	<p>100%</p>	<p>毎年度</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>	<p>100%</p>	<p>国立・国定公園区域及び公園計画の見直しを着実に実施することが目標の達成に寄与すると考えているため。</p>
<p>測定指標</p>	<p>目標</p>		<p>目標年度</p>	<p>測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠</p>							
<p>3 生物多様性の保全に係る各種取組の状況</p>	<p>生物多様性の保全のための必要な取組の推進</p>		<p>-</p>	<p>里地里山等の地域の特性に応じた保全を図るとともに、過去に損なわれた自然の再生、生物多様性保全の先進的・効果的な取組の支援を行うなど、生物多様性の保全のための必要な取組を推進することにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に資するため。</p>							
<p>4 保護区の管理状況</p>	<p>保護区の適切な保護・管理</p>		<p>-</p>	<p>原生自然環境保全地域や国内の世界遺産登録地、国立・国定公園地域において、適切な保護管理を行うことにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に資するため。</p>							
<p>達成手段(開始年度)</p>	<p>予算額計(執行額)</p>			<p>当初予算額</p>	<p>関連する指標</p>	<p>達成手段の概要等</p>				<p>平成28年 行政事業レビュー 事業番号</p>	
<p>(1) 原生的な自然環境の危機対策事業(平成22年度)</p>	<p>5百万円 (4百万円)</p>	<p>5百万円 (4百万円)</p>	<p>5百万円 (4百万円)</p>	<p>6百万円</p>	<p>4</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 自然環境保全地域等について、危機状況を把握するための調査を実施する。また、調査結果を分析・評価した上で、必要な対策を検討・実施する。 &lt;達成手段の目標&gt; 自然環境保全地域等の危機状況の把握及び対策等を実施する(自然環境保全地域等の適切な保全管理)。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 自然環境保全地域等の危機状況の把握及び対策等を実施することにより、当該地域の適切な保全管理を実施することができ、これにより「原生的な自然環境、里地里山などの二次的な自然、干潟などの生態系を地域の特性に応じて保全、維持管理」の一層の促進に寄与する。</p>				<p>191</p>	

<p>(2) 生物多様性保全推進支援事業 (平成20年度)(関連:28-①)</p>	<p>191百万円 (169百万円)</p>	<p>130百万円 (121百万円)</p>	<p>75百万円 (74百万円)</p>	<p>75百万円</p>	<p>3</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 地域における生物多様性の保全・再生(国内希少野生動植物種等対策、特定外来生物防除対策、生物多様性保護地域保全再生)に資する先進的・効果的活動を支援する。 &lt;達成手段の目標&gt; 国の生物多様性の保全上重要な地域における保全活動を実施する。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 本達成手段は地域における生物多様性の保全・再生(国内希少野生動植物種等対策、特定外来生物防除対策、生物多様性保護地域保全再生)に資する活動を推進するものであり、施策の達成すべき目標である、「生物多様性保全について先進的・効果的な取組を支援することで、今後の保全活動の推進に繋げる。」に寄与する。</p>	<p>192</p>
<p>(3) 自然再生活動推進費 (平成15年度)</p>	<p>6百万円 (6百万円)</p>	<p>6百万円 (6百万円)</p>	<p>6百万円 (14百万円)</p>	<p>9百万円</p>	<p>1.3</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 自然再生推進法に基づく自然再生協議会の設立や自然再生を進めるための技術的課題の解決等の支援を行う。また、自然環境に関する専門的知識を有する学識経験者等による自然再生専門家会議を組織することにより、自然再生の技術課題の解決を図る。 &lt;達成手段の目標&gt; 地域の多様な主体による自然再生の取組を支援することによる、自然環境の保全・再生を推進する。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 自然再生の技術課題の解決等の支援を行うことにより、過去に損なわれた自然について、地域の多様な主体による自然再生の取組を支援することができ、これにより自然環境の保全・再生の推進に寄与する。</p>	<p>193</p>
<p>(4) 国立・国定公園総点検事業費(国立・国定公園新規指定等推進事業 (平成19年度)</p>	<p>154百万円 (137百万円)</p>	<p>104百万円 (77百万円)</p>	<p>102百万円 (96百万円)</p>	<p>100百万円</p>	<p>2.4</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 国立・国定公園の新規指定又は大規模拡張の候補地とされた地域について、利用計画を検討して土地所有者や地域の関係者等との調整に必要な調査を行うとともに、その他の国立・国定公園についても、海域公園地区の指定を含め見直しに必要な自然環境や利用関係のデータ収集等の調査を行う。 海洋基本法・海洋基本計画・生物多様性国家戦略・海洋生物多様性保全戦略に基づき、海洋の生物多様性保全を推進するため、保護すべき重要な海域を抽出し、海洋保護区設定の検討材料とする。また、サンゴ礁生態系保全行動計画の実施を促進する。 &lt;達成手段の目標&gt; 国立公園の新規指定又は大規模拡張を推進する。海域公園地区の指定を含む公園区域及び公園計画の見直しを推進する。 重要海域抽出のための検討会を立ち上げ、抽出方法を定め、データ収集を行い、重要海域を抽出する。サンゴ礁生態系保全行動計画の点検を実施する。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 国立公園の新規指定又は大規模拡張、海域公園地区の指定を含む公園区域及び公園計画の見直しの根拠となる自然環境や公園利用に関するデータを収集することにより、関係者の理解を得ながら調整を進めることにより、点検等の見直しが進み、「自然状況や社会状況、風景評価の多様化等の変化をふまえ、国立・国定公園の区域及び公園計画について、着実に見直しを行い、適切な保護管理」に寄与する。</p>	<p>194</p>
<p>(5) 特定地域自然林保全整備事業費 (平成4年度)</p>	<p>5百万円 (5百万円)</p>	<p>6百万円 (5百万円)</p>	<p>6百万円 (5百万円)</p>	<p>6百万円</p>	<p>4</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 世界自然遺産地域等において、モニタリングのための機材や保全のための標識の整備・更新等を行う。 &lt;達成手段の目標&gt; 遺産地域等の基幹的施設の整備・更新(遺産地域等の適切な保全管理) &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; モニタリングのための機材や保全のための標識の整備・更新等を行うことにより、世界自然遺産地域等の適切な保全管理を実施することができ、これにより地域の特性に応じた生態系の保全、維持管理の一層の促進に寄与する。</p>	<p>199</p>
<p>(6) 生物多様性保全回復施設整備交付金事業 (平成25年度)</p>	<p>25百万円 (25百万円)</p>	<p>178百万円 (178百万円)</p>	<p>85百万円 (85百万円)</p>	<p>100百万円</p>	<p>3</p>	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 国の自然環境を代表する自然特性を有する地域と生態学的に密接な関連を有する地域で、条例等に基づき指定された保護地域その他重要な自然環境を有する地域として選定された里地里山、湿地等において、地方公共団体が行う地域の生態系の保全・回復を図るための生物の生息空間の整備事業のうち、先進的・効果的で全国的な観点から波及効果が期待される事業に対し、その工事に要する費用の一部を補助する。 &lt;達成手段の目標&gt; 国の自然環境を代表する自然的特性を有する地域に隣接するなど生態学的に密接な関連を有する地域において、地方公共団体が実施する生物多様性の保全・回復のための事業を促進することにより、地域の生物や生態系の有機的なつながりを確保する。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 地域の特性を踏まえて地方公共団体が行う生物多様性の保全・回復のための事業を支援することにより地域の生物や生態系の有機的なつながりを確保することにより、施策の達成すべき目標である、「生物多様性保全について先進的・効果的な取組を支援することで、今後の保全活動の推進に繋げる。」に寄与する。</p>	<p>205</p>

<p>(7) 日本の国立公園と世界遺産を活かした地域活性化推進費 (平成26年度)</p>	-	661百万円 (501百万円)	617百万円 (530百万円)	450百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 世界自然遺産の屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島については、植生の変化、シカの被害、外来種の影響など長期的なモニタリングを実施し、その結果を科学委員会を通じて対策に反映させる順応的な保全管理を一層充実させる。 また、国内候補地については、世界遺産の新規登録に向けて必要な各種資料の作成を行うとともに、動植物に係る情報の整理、保全管理上の課題についての検討を行う。 &lt;達成手段の目標&gt; 順応的な保全管理体制の構築を図る(遺産地域等の適切な保全管理)。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 最新の科学的知見に基づく保全管理体制の強化などにより、遺産地域等の保全管理の質を高めるとともに、生物多様性保全の先進地域としてのモデルを示し、これにより地域の特性に応じた生態系の保全、維持管理の一層の促進に寄与する。</p>	206
<p>(8) 地域循環共生圏構築事業 (平成28年度)</p>	-	-	-	85百万円	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 我が国の生態系の種類毎にその恵みを定量評価するとともに、資金メカニズム、ナショナルトラスト、地域間連携、地域資源を活用した流通システム、人材育成の環境づくり等資金や労力を確保する方策検討を行、)国民一人ひとりが、自然の恵みを実感し、自然の恵みを支える気運を醸成するとともに、地域の自然資源のストック(自然資本)の持続的な管理手法とそれを支える仕組みを備えた「地域循環共生圏」を構築する。 &lt;達成手段の目標&gt; 「地域循環共生圏」の構築を図る。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 「地域循環共生圏」の構築により、地域の自立的な自然環境の保全・再生の推進に貢献する。</p>	新28-0026
<p>(9) 世界遺産保全管理拠点施設等整備 (平成24年度)</p>	5百万円 (4百万円)	30百万円 (29百万円)	388百万円 (388百万円)	10百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 世界自然遺産地域を適切に保全管理し、遺産としての価値を維持することは、世界遺産条約国の責務である。とりわけ、小笠原諸島は世界遺産委員会の決議において、侵略的な外来種対策の継続・強化及び侵入・拡散の防止が求められているため、小笠原諸島世界遺産保全管理拠点を設置し、世界遺産としての価値の保全を図る。また、新規に世界自然遺産登録に向けた取組を進めている奄美・琉球についても、保全管理や普及啓発等を担う施設を設置する。 &lt;達成手段の目標&gt; 本施設を拠点として、世界遺産としての価値の維持を図る。特に、小笠原諸島においては、希少な陸産貝類の安定的な域外保全を図る。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 世界遺産としての価値の維持が図られていることで、世界遺産地域の適切な保全管理に大きく貢献する。</p>	202
<p>(10) 国立公園内生物多様性保全対策費(平成15年度)</p>	88百万円 (77百万円)	86百万円 (85百万円)	107百万円 (91百万円)	107百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 外来生物の侵入や里山の草刈り等の人為的な管理停止の影響により地域固有の生態系に影響が生じている地域において、生態系維持回復事業計画等に基づき、効果をモニタリングしながら順応的な生物多様性保全施策を実施する。また、島嶼といった外来種の影響を受けやすい脆弱な自然環境を有する地域において外来種の防除事業を継続する。さらに捕獲や採取等の規制対象となる動植物の見直し・選定を行い、国立公園等の保護地域に生息・生育する絶滅危惧種等の動植物の保全を強化するとともに、利用調整を実施する。 &lt;達成手段の目標&gt; 国立公園等の保護上重要な地域において、過剰利用や生態系攪乱を防止し、生物多様性を保全する。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 自然環境及び個々の生物種の保護による生物多様性の保全や、人と自然との共生等に寄与する。</p>	195
<p>(11) 日光国立公園「那須平成の森」管理運営体制構築事業(平成23年度)</p>	44百万円 (40百万円)	45百万円 (39百万円)	33百万円 (34百万円)	33百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 平成23年5月の一般供用後の変化を継続的にモニタリングするとともに、有識者会議を開催し、自然環境の保全や利用のあり方、モニタリングの体制構築について検討を行う。また、那須平成の森フィールドセンターや那須高原ビジターセンターを拠点として、ガイドツアーや自然体験プログラムの実施、施設内展示、解説等を行うことにより、国民に対して、所管換の趣旨に沿った利用環境を国民に提供する。 &lt;達成手段の目標&gt; 国民が自然を体験し、自然を学び、自然と人間の共生の在り方を学ぶための利用環境を確保するとともに、多様な生物種が確認される豊かな自然を引き続き保全し、国民が自然に直接ふれあえる場として活用するための体制を構築する。 &lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 豊かな自然の中で国民が自然を体験し、自然と人間の共生のあり方を学ぶための場所にふさわしい利用環境を環境省において確保・維持していくことで、自然との共生の推進に資することに寄与する。</p>	196

(12)	特定民有地買上事業費 (平成17年度)	102百万円 (65百万円)	102百万円 (56百万円)	102百万円 (23百万円)	300百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 国立公園等のうち自然環境保全上特に重要な地域であって、民有地であるために当該土地を買い取らない限り私権との調整上厳正な保護管理を図ることができない地域を対象として、土地及びその上に所在する立木を含めて国が買上を行う事業である。 本事業により取得した土地等については、国の行政財産として厳正な保護管理を図る。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 国立公園等のうち自然環境保全上重要な地域内に所在し、生物多様性保全の観点等から保護の必要性が高い民有地の買上を行い、これらの地域の保護管理の強化を図る。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 国立公園等のうち自然環境保全上重要な地域内に所在し、生物多様性保全の観点等から保護の必要性が高い民有地の買上を行い、適切な保護管理を行うことにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に寄与する。</p>	197
(13)	国立公園管理計画等策定調査費(平成18年度)	7百万円 (6百万円)	20百万円 (17百万円)	18百万円 (12百万円)	22百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 各国立公園を管理計画区として地域区分し、多様な主体の連携による適切な公園管理を推進するための具体的な取扱方針等を定めた「管理運営計画」を作成するとともに、平成26年度に改定した「管理運営計画策定要領」の評価・検証を行うため、モデル的な取組を全国の国立公園において実施し、新たな公園管理システムの確立を目指す。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 自然公園法に基づき、各国立公園における地域の自然的・社会的条件を踏まえて、地域の合意形成を通じて「管理方針」及び「管理運営計画」をとりまとめる。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 各国立公園において、地域の特性に応じた適切な管理方針を作成し、適切できめ細やか、かつ円滑な国立公園の管理運営が実施されることで、自然との共生の推進に資することに寄与する。</p>	200
(14)	国立公園等民間活動特定自然環境保全活動(グリーンワーカー)事業費(平成13年度)	268百万円 (235百万円)	276百万円 (245百万円)	278百万円 (272百万円)	281百万円	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 国立公園等の貴重な自然環境を有する地域において、当該地域の自然環境や社会状況を熟知した地元住民等によって構成される民間事業者等を活用し、国民ニーズや地域ニーズを把握した上で、野生生物の保護や歩道の維持・修繕等の活動を最も効果的かつ効果的に実施し、国立公園管理やサービスのグレードアップを図る。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 地域の実情に対応した迅速で、きめ細やかな自然環境保全活動を通じて、国立公園等の年間利用者数を毎年2%づつ増加させるよう、利用の推進を図る。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 生物多様性保全、国立公園等の管理やサービスのグレードアップが図られ、国民のニーズにも寄与する。</p>	201
(15)	地方環境事務所電子政府システム維持管理更新費(平成15年度)	14百万円 (14百万円)	23百万円 (23百万円)	39百万円 (37百万円)	24百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 国立公園に係る各種申請等に対して効率的な処理を確保するため、「電子政府構築計画」に基づき、国立公園業務管理システムの適切な維持及び必要な更新を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 国立公園に係る申請届出手続のスピードアップ、行政サービス及び業務効率の向上を図る。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 国立公園に係る申請届出手続のスピードアップ、行政サービス及び業務効率の向上により、円滑な国立公園管理を行い、人と自然との共生を通して、生物多様性保全に寄与する。</p>	188
(16)	山岳環境保全対策事業(平成25年度)	80百万円 (80百万円)	85百万円 (85百万円)	67百万円 (65百万円)	106百万円	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 山岳環境の保全や、中高年、女性登山者、訪日外国人旅行者の利用増加に対し、環境に配慮した尿処理施設が整備されていない山小屋等トイレを公衆トイレとして活用できるよう推進を図る。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 国立公園等の外国人の利用者数を毎年20%づつ増加させる目標を達成することにより、山岳地域の優れた自然環境の保全と適正化を図る。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 当該事業を通じ、国立公園等をより魅力あるものとするともに、観光地域として再生・活性化することに寄与する。</p>	204



放射線による自然生態系 (17)への影響調査費 (平成28年度)	-	-	-	15百万円	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射線による自然生態系への影響を把握するため、野生動植物への放射線の影響を調査するとともに、関係機関や専門家と連携しながら情報収集に努める。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 放射線による自然生態系への影響を把握する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 野生動植物への放射線影響に関する調査、関係機関等との連携や情報収集を実施することにより、放射線による自然生態系への影響を把握することができ、これにより生物多様性の保全のための必要な取組の一層の推進に寄与する。</p>	新28-0027
三陸復興国立公園再編成等推進事業費 (平成28年度から一般会計)	-	-	-	20百万円	1,2,3	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 自然公園の再編成による三陸復興国立公園の創設、長距離自然歩道(みちのく潮風トレイル)の路線設定、エコツアー等の公園利用プログラムの作成、自然環境変化状況の把握のための基礎調査等の具体的な取組を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 平成26年度中に三陸復興国立公園に南三陸金華山国定公園を編入、平成27年度までにみちのく潮風トレイルの全路線を設定する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 国立公園の再編成については、自然環境を活かして復興していく基盤として寄与する。みちのく潮風トレイルの設定については、公園利用者を増やし、地域観光の活性化に寄与する。</p>	新28-0028
鳥獣保護管理強化総合対策事業費 (平成24年度) (関連: 28-㉓)	516百万円 (367百万円)	709百万円 (581百万円)	768百万円 (665百万円)	768百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; シカ等の野生鳥獣による深刻な生態系被害を受けている国立公園等の保全地域又は、今後生態系被害が顕在化する可能性がある地域において、野生鳥獣の管理計画を策定するとともに、シャープシューティング等の先進的な捕獲法を導入しつつ捕獲を継続する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 生態系の現況把握、野生鳥獣による被害状況把握、対象種の生態特性把握、保全対象の優先度整理、捕獲体制の構築等を行い、野生鳥獣の個体数密度を適正化するための基盤を構築する。また、並行して捕獲を進めることで、生態系被害を与える野生鳥獣の生息頭数を適正化し、被害を終息させる。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 我が国の生物多様性保全上重要な国立公園等において、野生鳥獣の適切な保護管理を行うことにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に寄与する。</p>	198
施策の予算額・執行額	1,510百万円 (1,234百万円)	2,466百万円 (2,052百万円)	2,696百万円 (2,395百万円)	2,517百万円	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		

平成28年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省28-23)

別紙1

施策名	5-3.野生生物の保護管理				担当部局名	自然環境局 野生生物課	作成責任者名 (※記入は任意)	植田 明浩					
施策の概要	絶滅危惧種の生息状況等の調査による現状把握と国内希少野生動物種の新規指定、保護・増殖による種の保存、野生鳥獣の適切な保護・管理と狩猟の適正化、遺伝子組換え生物及び侵略的な外来生物への対策推進等による生物多様性等への影響防止。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進							
達成すべき目標	新たに種の絶滅が生じないようにするとともに、絶滅の危機に瀕している種の個体数の維持・回復。野生鳥獣の適切な保護・管理。外来生物による在来生物や生態系への影響の防止。				目標設定の考え方・根拠	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法	政策評価実施予定時期	平成29年6月					
測定指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値								測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠		
			基準年度	目標年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		30年度	
1 (~25年度) 絶滅危惧種の現状把握と保護増殖の進捗状況 (26年度~) 国内希少野生動物種の新規指定数	-	-	300種	32年度	第4次レッドリストの公表	レッドデータブックの作成	30種	75種	120種	165種	210種	絶滅危惧種の保全を効果的に推進するためには、レッドリストの改訂等による定期的な現状把握を行い、その結果をもとに、種の保存法に基づく国内希少野生動物種の新規指定や見直し等を行う必要があるため。	
2 奄美大島におけるマンギースの捕獲努力量あたりの捕獲数(1000畝日当たりの捕獲数)	-	-	奄美大島 0頭	平成34年度	-	-	-	-	-	-	-		特定外来生物による生態系への被害を防止するため、特に奄美大島において我が国固有の希少野生動物への大きな被害を及ぼしている特定外来生物マンギースを科学的知見に基づき根絶する必要があるため。
3 ニホンジカ・イノシシの生息頭数の推定値(全国)を平成23年度比で半減(イノシシは50万頭) (推定は毎年度新しいデータを追加して実施。過去に遡って推定値が見直されるため、過去の推定結果も変動する)	推定の中央値ニホンジカ328万頭、イノシシ97万頭 ※27年度に算出	平成23年度	平成23年度比で半減(ニホンジカ164万頭、イノシシ50万頭)	平成35年度	-	-	-	-	-	-	-		
測定指標	目標		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠										
4 侵略的外来種の状況	目標		目標年度		侵略的外来種とその定着経路が特定され、優先順位付けられ、優先度の高い種が制御され又は根絶される。								
5 適切な野生生物保護管理の推進に向けた対策の実施状況	野生生物の適切な保護管理		-		外来種の情報収集を行い、対策の優先度の高い外来種を明らかにすることで、外来種による生態系への被害の防止を図るため。また、外来種の侵入経路の把握に努め、より効率的な対策を進めるため。								
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)				当初予算額	関連する指標	達成手段の概要等				平成28年 行政事業レビュー 事業番号		
	25年度	26年度	27年度	28年度									
(1) 希少種保護推進費 (平成5年度)	409百万円 (387百万円)	649百万円 (637百万円)	611百万円 (596百万円)	656百万円	1	<達成手段の概要> レッドリストの見直し、保護増殖事業の実施等の国内希少野生動物種の保全に関する事業、国内希少野生動物種の指定に向けた調査等を実施する。 <達成手段の目標> 絶滅危惧種の保全施策を実施する。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国内希少野生動物種の新規指定、希少野生動物種の生息状況等の現状把握、保護増殖事業の実施等により種の保存に寄与する。				211			

(2)	トキ生息環境保護推進協力費 (平成13年度)	16百万円 (13百万円)	17百万円 (11百万円)	16百万円 (15百万円)	13百万円	1	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 日中のトキ保護協力に関する事業</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 絶滅危惧種の保全施策を実施する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 中国におけるトキの生息状況等の現状把握等により、日本のトキ野生復帰の取組等に寄与する。</p>	209
(3)	野生生物保護センター等整備・維持費 (平成4年度)	1679百万円 (1310百万円)	632百万円 (610百万円)	145百万円 (128百万円)	164百万円	1	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 野生生物保護センター、水鳥・湿地センター、世界遺産センター等維持管理 国内希少野生動植物種の保護増殖及び渡り性水鳥の重要生息地の保全等を推進するための拠点となる施設の整備・改修</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 施設の適切な維持・運営を図る。</p> <p>野生生物保護センター、絶滅危惧種の野生順化施設、水鳥・湿地センター、鳥獣保護区管理棟及び世界遺産センターの整備・増改築・修繕等を実施する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 絶滅危惧種の調査や野生復帰、利用者への普及啓発により種の保存等に寄与する。 絶滅危惧種を含む野生生物及びこれらの生息地の保全に寄与する。</p>	215
(4)	野生生物専門家活用事業 (平成19年度)	30百万円 (34百万円)	35百万円 (38百万円)	35百万円 (39百万円)	40百万円	1	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 絶滅危惧種の生息状況調査等を実施するための野生生物専門家を雇用</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 絶滅危惧種の保全施策を実施する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 専門家が実施する絶滅危惧種の生息状況調査等により種の保存に寄与する。</p>	220
(5)	国際希少野生動植物種流通管理対策費 (昭和61年度)	7百万円 (6百万円)	89百万円 (79百万円)	27百万円 (27百万円)	27百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt; ワシントン条約の科学当局としての任務(①野生動植物の国際取引に際し、その取引がその種の存続を脅かすことにならないかを判断し、管理当局に助言すること②標本の同定等条約の適正な実施に必要な科学的知見の集積提供等を行うこと)を遂行するため、条約対象種に係る最新の生物学的・生態学的データの整備や保全状況の把握等の業務を行う。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 条約対象種等に係る最新の生物学的・生態学的データや保全状況等を把握する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標への寄与の内容&gt; ワシントン条約締約国としての責任を遂行し、国際的に絶滅のおそれのある野生動植物種の保存を図ることに寄与する。</p>	208
(6)	外来生物対策費 (平成16年度)	38百万円 (44百万円)	66百万円 (74百万円)	60百万円 (69百万円)	91百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; ①特定外来生物等の選定作業、②外来生物全般に係る侵入・生態及び流通実態等の調査(水際における定点モニタリング調査等を含む)、③「外来生物飼養等情報データベースシステム」の保守点検・運用等行う。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 達成手段の概要の①～③の通常業務を継続する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 特定外来生物等への選定は、外来生物法に基づく規制対象の追加に資する。外来生物全般に係る調査は、海外から我が国に侵略的な外来生物が導入されること等を阻止し、また今後の防除等の対策のための基礎的情報を提供する。「外来生物飼養等情報データベースシステム」の保守点検・運用は、外来生物法に基づき規制されている特定外来生物の飼養等の規制を担保するために必要なシステムの維持に貢献する。</p>	212
(7)	外来生物対策管理事業地方事務費 (平成18年度)	23百万円 (19百万円)	22百万円 (20百万円)	24百万円 (20百万円)	24百万円	4	<p>&lt;達成手段の概要&gt; ①外来生物法に基づく申請・届出の審査、規制内容の申請者への周知及び防除の確認・認定の諸業務を実施するために必要な派遣職員を雇用する。②水際(税関)において任意放棄された特定外来生物等の個体並びに警察及び地方公共団体から引渡された特定外来生物の個体について、引取及び処分等を行うほか、輸入業者・旅行者等への普及啓発事業を行う。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; ①及び②の業務を継続し、外来生物法の実効性を確保する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 外来生物法関連の諸業務を実施するために必要な派遣職員の雇用により、同法に基づく特定外来生物の飼養等の規制を担保する。また、任意放棄された特定外来生物の引取等により、特定外来生物の野外における拡散や被害を防ぐ。</p>	218

(8)	特定外来生物防除等推進事業費 (平成18年度)	419百万円 (408百万円)	432百万円 (423百万円)	451百万円 (441百万円)	486百万円	2	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 外来生物法第11条に基づいて、特定外来生物の防除を実施するもの。①生態系等への被害を防止するため、ラムサール条約湿地など我が国の生物多様性保全上特に重要な地域において定着が確認された特定外来生物の防除を行うとともに、②生息・生育地が限定的であり、侵略性の高い特定外来生物等について、緊急的に防除を行い、③さらに、全国的に分布、定着し広域で被害を発生させている特定外来生物について、各地の地方公共団体、民間団体及び地域住民が連携して効果的に防除を行えるよう、実施体制や防除手法の検討、地域間の連携や情報共有体制を構築するための事業を行い、特定外来生物の防除が円滑に推進されるよう支援を行う。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; ①、②及び③の考え方に基づく業務を継続することにより、特定外来生物の防除の取組を推進し、特定外来生物による生物多様性への被害を軽減する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; ①ラムサール条約湿地など我が国の生物多様性保全上特に重要な地域における特定外来生物の防除、また、②我が国で新たに定着が確認された、もしくは生息・生育地が限定的であり、侵略性の高い特定外来生物等の防除を自ら実施し、生息数を削減することで生態系等への被害を防止する。 ③実施体制や防除手法の検討、地域間の連携や情報共有体制を構築するための事業を行うことにより特定外来生物の防除を自ら実施し、生態系等への被害を防止するとともに、その成果をマニュアル化して周知することで、地域における防除の推進に資する。</p>	219
(9)	遺伝子組換え生物対策費 (平成16年度)	18百万円 (20百万円)	24百万円 (19百万円)	21百万円 (15百万円)	21百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 遺伝子組換え生物の使用承認に当たったの法に基づく学識経験者への意見聴取会合の開催、立入検査の実施、遺伝子組換え生物に関する情報の収集、リスク評価手法の検討、野外での遺伝子組換え生物の生育状況監視、名古屋・クアラルンプール補足議定書締結に向けた情報収集、ホームページ(J-BCH)による国民への情報提供等を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 国内における遺伝子組換え生物の使用等の適切な規制を行う。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 遺伝子組換え生物の使用等の規制を行うとともに、最新の知見に基づく規制を実施するための情報収集や国民への情報提供を行い、我が国の生物多様性の確保に寄与する。</p>	214
(10)	指定管理鳥獣捕獲等事業費 (平成26年度)	-	0百万円 (0百万円)	1,426百万円 (946百万円)	500百万円	3	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 平成27年5月に施行された改正鳥獣法に基づき実施される都道府県による指定管理鳥獣(ニホンジカ、イノシシ)の捕獲事業(指定管理鳥獣捕獲等事業)を支援するための交付金を交付する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; ニホンジカ・イノシシの個体数を、平成23年度の推定値を基準として、平成35年度までに半減する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 都道府県による指定管理鳥獣(ニホンジカ、イノシシ)の捕獲事業を支援することにより、指定管理鳥獣の管理の強化に寄与する。</p>	221
(11)	鳥獣保護基盤整備費 (平成10年度、一部平成19年度)	40百万円 (46百万円)	41百万円 (46百万円)	41百万円 (53百万円)	41百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 科学的で計画的な鳥獣保護管理の推進の基礎となる情報収集等を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 情報収集等による鳥獣保護管理の基盤整備を行う。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 鳥獣保護管理の基盤を整備することにより、野生鳥獣の保護・管理の適正な推進に寄与する。</p>	210
(12)	鳥獣保護管理強化総合対策事業費 (平成24年度)	516百万円 (367百万円)	709百万円 (581百万円)	768百万円 (665百万円)	768百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 鳥獣保護管理の充実・強化のため、基本指針の見直しに向けた点検・調査、鳥獣保護管理に係る担い手の確保等を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 基本指針の見直しに向けた点検・調査、鳥獣保護管理に係る担い手の確保等を推進する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 基本指針等の見直しを行うとともに、引き続き鳥獣の保護・管理の担い手の確保・育成、特定鳥獣及び広域分布型鳥獣の保護・管理等を総合的に推進することにより、野生鳥獣の保護・管理の強化に寄与する。</p>	198
(13)	野生鳥獣感染症対策事業費 (平成17年度)	70百万円 (79百万円)	72百万円 (78百万円)	70百万円 (72百万円)	78百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt; 野鳥の高病原性鳥インフルエンザ等の発生状況の監視やモニタリング、各種調査等の実施による危機管理体制の整備を行う。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt; 通常時のサーベイランス等を適切に実施し、発生時に備える。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt; 野生鳥獣の感染症対策を実施することにより、国民の安全・安心な生活の確保とともに、適正な野生鳥獣の保護・管理の推進に寄与する。</p>	213

(14) 国指定鳥獣保護区対策費 (昭和46年度、一部平成21年度)	27百万円 (32百万円)	25百万円 (24百万円)	23百万円 (23百万円)	23百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt;          国指定鳥獣保護区における鳥獣の生息状況調査等、新規指定予定箇所の調査等を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;          国指定鳥獣保護区の適切な保護管理を推進する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;          国指定鳥獣保護区の適切な保護管理を推進すること等により、野生鳥獣の保護管理の適正な推進に寄与する。</p>	217
(15) 希少野生動植物種生息地等保護区管理費 (平成18年度)	8百万円 (7百万円)	8百万円 (8百万円)	8百万円 (8百万円)	8百万円	1	<p>&lt;達成手段の概要&gt;          生息地等保護区における対象とする国内希少野生動植物種の生息・生育状況調査等、新規指定予定箇所の調査等を実施する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;          生息地等保護区における対象とする国内希少野生動植物種及びその生息・生育環境の適切な保護管理を推進する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;          生息地等保護区の適切な保護管理を推進すること等により、国内希少野生動植物種の保存に寄与する。</p>	216
(16) 国際分担金等経費 (昭和54年度) (関連:28-㉑)、28-㉒)	277百万円 (277百万円)	254百万円 (254百万円)	261百万円 (258百万円)	261百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt;          ・拠出先である国際湿地保全連合により、湿地の保全、調査研究及び普及啓発等のための事業を実施する。          ・バイオセーフティに関するカルタヘナ議定書を締約国が着実に履行するため、カルタヘナ議定書事務局に拠出する。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;          ・湿地の保全、調査研究及び普及啓発等を推進し、世界の湿地の保全及び湿地に依存する人々の生活の維持・向上に寄与する。          ・締約国がカルタヘナ議定書を履行できるようリスク評価等の能力開発を進めるため、各種会議の開催、情報共有・発信を目的としたウェブサイトの運営等の支援を実施し、カルタヘナ議定書の戦略計画を達成する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;          ・国際的な湿地の保全及び湿地を生息地とする水鳥をはじめとする野生生物の保全に寄与する。          ・締約国の取組が促進され、国境を越えて移動する遺伝子組換え生物等が適切に管理されることにより、我が国の生物多様性の確保に寄与する。</p>	178
(17) アジア太平洋地域生物多様性保全推進費 (昭和57年度) (関連:28-㉑)	52百万円 (50百万円)	63百万円 (54百万円)	83百万円 (74百万円)	66百万円	5	<p>&lt;達成手段の概要&gt;          ラムサール条約、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ及び二国間渡り鳥保護条約・協定等の実施のための業務を行う。</p> <p>&lt;達成手段の目標&gt;          アジア太平洋地域において、関係する国、機関、地域住民等との協働による取組の推進を通じて、損失や劣化が著しい湿地生態系の保全及び持続可能な利用の推進、並びに国境を越えて移動する渡り鳥の保全を効果的に推進する。</p> <p>&lt;施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容&gt;          アジア太平洋地域における湿地及び渡り鳥の保全に寄与する。</p>	186
施策の予算額・執行額	3,629百万円 (3,099百万円))	3,138百万円 (2,956百万円)	4,070百万円 (3,449百万円)	3,268百万円	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		

平成28年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省28—24)

別紙1

施策名	5-4.動物の愛護及び管理				担当部局名	自然環境局総務課 動物愛護管理室	作成責任者名	動物愛護管理室長 則久 雅司				
施策の概要	飼い主による終生飼養等の適正な飼養、動物取扱業の適正化、都道府県等に引き取られた犬猫の返還・譲渡等を推進することにより、人と動物の共生する社会の実現を図る。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進						
達成すべき目標	自治体における犬及び猫の引取り数の75%減(平成16年度比)、犬及び猫の殺処分率の減少			目標設定の考え方・根拠	動物の愛護及び管理に関する法律第5条に基づく動物愛護管理基本指針(平成18年10月31日環境省告示第140号)		政策評価実施予定時期	平成29年6月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値						測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		30年度
1 自治体における犬及び猫の引取り数の75%減(平成16年度比)となる10万頭	418千頭	16年度	100千頭	35年度	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	国等が取り組むべき動物愛護管理施策を定めている動物愛護管理基本指針において、平成35年度までに図られるよう努めるものとされているため。
2 犬及び猫の殺処分率の減少	94%	16年度	減少傾向維持	35年度	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	減少傾向維持	国等が取り組むべき動物愛護管理施策を定めている動物愛護管理基本指針において、平成35年度までに図られるよう努めるものとされているため。
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する指標	達成手段の概要等						平成28年行政事業レビュー事業番号
	25年度	26年度	27年度	28年度								
(1) 調査連絡事務費(平成13年度 ※総理府からの移管前においては昭和49年度から)	8百万円(7百万円)	96百万円(75百万円)	105百万円(96百万円)	109百万円	1.2	<達成手段の概要> 自治体等の連絡会議の開催、動物愛護管理行政関係資料の作成、収容動物検索情報サイトの運用等 <達成手段の目標> 自治体に収容された犬猫の返還・譲渡の推進 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自治体に収容された犬猫を、1頭でも多く元の飼い主へ返還及び新たな飼い主へ譲渡する機会をつくることで、殺処分率の減少に寄与する。						222
(2) 動物適正飼養推進・基盤強化事業(平成13年度 ※総理府からの移管前においては昭和52年度から)	75百万円(63百万円)				1.2	<達成手段の概要> 普及啓発、動物愛護センサス、基本指針の点検などの総合的な施策を実施 <達成手段の目標> 動物愛護管理施策の総合的な推進 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 動物の愛護と適正な管理について、国民の意識の向上を図るとともに、動物の取扱状況の実態等について継続的に調査及び評価を行うことで課題の着実な達成とさら更なる効果的な施策の展開につなげる。						
(3) 飼養動物の安全・健康保持推進事業(平成20年度)	6百万円(3百万円)	11百万円(4百万円)	6百万円(2百万円)	6百万円	1	<達成手段の概要> 飼養動物の適切な給餌にかかる普及啓発、ペットフードの安全性等に関する情報の収集及び分析等 <達成手段の目標> 動物の適正飼養の推進 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 動物の愛護と適正な管理について、国民の意識の向上を図る。						223
動物収容・譲渡対策施設整備費補助(平成21年度)	80百万円(76百万円)	69百万円(59百万円)	87百万円(80百万円)	95百万円	2	<達成手段の概要> 自治体に引き取られた犬及び猫を返還・譲渡に結びつけることが重要であることから、動物の収容及び譲渡のためのスペースの新築・改築・増築にかかる費用を補助するもの <達成手段の目標> 自治体に収容された犬猫の返還・譲渡の推進 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 1頭でも多くの犬及び猫を元の飼い主へ返還及び新たな飼い主へ譲渡する場を整備することで、殺処分率の減少に寄与する。						224
(4) 動物愛護管理推進事業(平成18年度)	2百万円(1百万円)	2百万円(4百万円)	1百万円(4百万円)	1百万円	1	<達成手段の概要> 逸走した危険動物への対応 <達成手段の目標> 動物の適正飼養の推進 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 動物の愛護と適正な管理について、国民の意識の向上を図る。						225
施策の予算額・執行額	171百万円(150百万円)	178百万円(142百万円)	199百万円(182百万円)	212百万円	施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)							

平成28年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省28—25)

別紙1

施策名	5-5.自然とのふれあいの推進										担当部局名	自然環境局 国立公園利用推進室 自然環境整備課	作成責任者名 (※記入は任意)	国立公園利用推進室長 田邊仁 自然環境整備課長 吉田 一博	
施策の概要	豊かな自然とのふれあいや休養などの国民のニーズに応えるため、持続可能な自然資源の保全を図りつつ、安全で快適な自然とのふれあいの場の提供やふれあい活動をサポートする人材の育成を行う。										政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進			
達成すべき目標	安全で快適な自然とのふれあいの場を提供しつつ、ふれあい活動をサポートする人材を育成することでエコツーリズムを推進し、自然とのふれあいの質の向上を図る。また、貴重な自然資源である温泉の保護と適正な利用を図る。										目標設定の考え方・根拠	自然公園法 エコツーリズム推進法 エコツーリズム推進基本方針 温泉法	政策評価実施予定時期	平成29年6月	
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠			
	基準年度	目標年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度						
1 自然公園の年間利用者数の推移(千人)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	自然とのふれあいの機会を増加させるため、自然公園の年間利用者数を評価する。 平成27年の利用者数は、集計中であるため未確定。			
2 エコツーリズム推進法に基づく全体構想の認定数(括弧内は総数)	-	20年度	47	40年度	-	-	-	-	3	3	3	全体構想の認定数が増加することは、エコツーリズムの推進に直接的に結びつき、自然と人の共生について国民の意識の向上を図ることに繋がる。			
3 温泉の自噴湧出量(L/分)	651,265	昭和45年度	前年度の水準を維持	-	738,000	677,000	726,000	733,000	-	-	-	温泉資源が保護され、適正に利用されているかは自然の産物である「温泉の自噴湧出量」を把握することで定量的に把握することが可能となるため。			
4 国立公園・国民公園年間利用者数の推移(千人)	-	-	前年度比1%増	-	320,535	349,325	370,957	369,978	-	-	-	自然とのふれあいの機会を増加させるため、国立公園・国民公園の年間利用者数を評価する。 平成27年の利用者数は、集計中であるため未確定。			
5 国立公園における自然再生事業推進のための実施計画数	-	-	16	32年度	-	-	-	-	-	-	-	自然環境の保全や消失・変容した自然生態系の再生を図るため、国立公園における自然再生事業推進のための実施計画数を評価する。			
6 国指定鳥獣保護区における保全事業実施計画数	-	-	12	32年度	-	-	-	-	-	-	-	自然環境の保全や消失・変容した自然生態系の再生を図るため、国指定鳥獣保護区における保全事業実施計画数を評価する。			
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する指標	達成手段の概要等	平成28年 行政事業レビュー 事業番号								
	25年度	26年度	27年度	28年度											
(1) エコツーリズム総合推進事業費 (平成16年度)	22百万円 (17百万円)	33百万円 (20百万円)	24百万円 (21百万円)	15百万円	2	<達成手段の概要> エコツーリズム推進法に定められている国の責務である全体構想の認定、周知、技術的助言、情報収集、広報活動等を所管省庁と連携して実施する。 <達成手段の目標> エコツーリズム推進全体構想認定数が都道府県に1以上となるよう、エコツーリズムの推進を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> エコツーリズムの推進を図ることで、持続可能な利用が図られる「自然と共生する社会」の実現に寄与する。	226								
(2) 自然公園等事業費 (平成6年度)	12,578百万円 (10,998百万円)	9,615百万円 (8,882百万円)	8,426百万円 (8,092百万円)	8,113百万円	4.5.6	<達成手段の概要> 国立公園等において自然環境の保全や消失・変容した自然生態系の再生を図るとともに、国立公園等の保護上及び利用上重要な事業(登山道、避難小屋、木道、植生復元施設、山岳トイレ等の整備)並びに国民公園等の施設整備を実施し、維持管理を行うもの。 <達成手段の目標> 国立公園等における優れた自然風景地等の保護と、利用の増進を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自然公園等事業を通じて、国立公園等における優れた自然風景地等の保護と利用を図るとともに、安全で快適な自然とのふれあいの場の提供に寄与する。	228								

温泉の保護及び安全・適 (3) 正利用推進事業 (平成18年度)	19百万円 (18百万円)	17百万円 (16百万円)	19百万円 (18百万円)	24百万円	3	<達成手段の概要> 温泉の保護や可燃性天然ガスによる災害の防止、温泉の適正利用等、温泉法の適正な執行を図るための調査を行う。 <達成手段の目標> 温泉法に基づき都道府県等が行う許可の判断基準等に関連する事項を策定し、技術的助言を実施。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 当該事業を通じて、温泉の保護、可燃性天然ガスによる災害の防止、温泉の適正利用を推進するとともに、安全で快適な自然とのふれあいの場の提供に寄与する。	227
自然公園等利用ふれあい (4) 推進事業 (平成19年度)	2百万円 (1百万円)	2百万円 (1百万円)	10百万円 (9百万円)	10百万円	1.4	<達成手段の概要> 自然とのふれあいの機会・情報の提供等により、自然環境保全に関する理解の深化、各種取組への意欲の増進、適正利用の促進等を図る。 <達成手段の目標> 国立公園等において、重点推進期間等における自然とのふれあい行事を実施するとともに、利用者指導等をおこなう自然公園指導員及び自然解説等をおこなうパークボランティアの技術向上のために研修等を実施する。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自然とのふれあいの機会及び情報提供等は直接的に自然とのふれあいの場を提供することに寄与する。	229
国立公園におけるユニ (5) バーサルデザインプロ ジェクト事業 (平成28年度)	-	-	-	40百万円	1.4	<達成手段の概要> 訪日外国人や高齢者及び障がい者など、誰もが快適に過ごせる国立公園となるよう、ソフト面でのユニバーサルデザイン化を図る。 <達成手段の目標> ICTを活用した情報発信の充実や、ビジターセンター職員等に対する研修等の実施により国立公園のユニバーサルデザイン化を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立公園の魅力向上により、利用者数の増加をはじめ、地域の観光振興・活性化に寄与する。	新28-0029
施策の予算額・執行額	12,621百万円 (11,034百万円)	9,667百万円 (8,919百万円)	8,479百万円 (8,140百万円)	8,203百万円	施策に係る内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	生物多様性国家戦略2012-2020、日本再興戦略、観光立国実現に向けたアクション・プログラム2016	



平成28年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省28-26)

別紙1

施策名	5-6.東日本大震災への対応(自然環境の復旧・復興)				担当部局名	国立公園課 野生生物課 自然環境整備課			作成責任者名 (※記入は任意)	国立公園課長 岡本 光之 野生生物課長 植田 明浩 自然環境整備課 吉田 一博			
施策の概要	地域の自然資源等を活用した三陸復興国立公園の拡張、被災した公園事業施設の復旧や復興のための整備に取り組む。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進							
達成すべき目標	・三陸復興国立公園の創設を始めとした様々な取組を通じて、森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域のくらしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興する。				目標設定の考え方・根拠	・東日本大震災からの復興の基本方針(平成23年7月29日 東日本大震災復興対策本部決定) ・三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン(平成24年5月7日 環境省) ・生物多様性国家戦略2012-2020(平成24年9月28日閣議決定) ・自然公園法			政策評価実施予定時期	平成29年6月			
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
					24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度		
1 三陸復興国立公園(平成24年度までは陸中海岸国立公園)の利用者数(千人)	458	23年度	6,994	32年度	-	-	-	-	-	-	-	-	三陸復興国立公園の創設を始めとする様々な取組によって、当該公園を訪れる者が増加することは、観光拠点の復旧・復興が進んでいると考えられることから、測定指標として「三陸復興国立公園利用者数」を選定した。なお、目標値は、平成32年度における利用者数を震災以前の水準(6,994千人以上)にすることとしている。
2 三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)の年間利用者数(千人)	2,975	17~21年	2,975	32年度	-	-	-	-	-	-	-	-	被災した既存施設の復旧や観光地の再生に資する復興を図るため、三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)での震災前5年間の平均年間利用者数(2,975千人)を目標値として評価する。
3 みちのく潮風トレイル踏破認定証の発行数(人)	/	/	/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	被災地を南北に繋ぎ交流を深めるため、総延長約700kmの長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」(以下、トレイル)の路線設定を進めており、トレイルを歩く者が増えることは、地域内外の交流を生み、地域の活性化にも資すると考えられるため、測定指標として、「踏破認定制度」による認定証の発行数を指標とした。なお、目標値は、3か年程度の発行数の推移を確認したうえで適切な目標値を設定する。  ※踏破認定制度は青森県八戸市~岩手県普代村の区間で複数箇所実施。平成26年度の実績値は開始月の7月からの数値である。なお、数値は利用者数ではなく発行数を示したもの
測定指標	目標		目標年度		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠								
4 CPUE(一つのわなで捕獲できる捕獲数(イノブタを除く)の減少)	イノシシ等の安全かつ効率的に捕獲し被害が軽減する生息密度に抑える		-		旧警戒区域内等においてイノシシ等の野生鳥獣を捕獲することにより鳥獣等により被害を軽減することは、帰還後の住民の生活環境を整備することに直結し、東日本大震災からの復興に寄与するため、イノシシの生息密度の評価指標の一つであるCPUE(一つのわなで捕獲できる捕獲数)を測定指標とする。								
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)			当初予算額	関連する指標	達成手段の概要等						平成28年行政事業レビュー事業番号	
	25年度	26年度	27年度	28年度									
(1) 三陸復興国立公園再編成等推進事業(平成23年度から復興特会)	471百万円 (365百万円)	522百万円 (455百万円)	522百万円 (462百万円)	-	1.2.3	<達成手段の概要> 自然公園の再編成による三陸復興国立公園の創設、長距離自然歩道(みちのく潮風トレイル)の路線設定、エコツアー等の公園利用プログラムの作成、自然環境変化状況の把握のための基礎調査等の具体的な取組を実施する。 <達成手段の目標> 平成26年度中に三陸復興国立公園に南三陸金華山国定公園を編入、平成27年度までにみちのく潮風トレイルの全路線を設定する。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立公園の再編成については、自然環境を活かして復興していく基盤として寄与する。みちのく潮風トレイルの設定については、公園利用者を増やし、地域観光の活性化に寄与する。						207(復興庁)	

放射線による自然生態系への影響調査費 (平成25年度から復興特会)	61百万円 (50百万円)	59百万円 (39百万円)	83百万円 (70百万円)	—	—	<達成手段の概要> 東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射線による自然生態系への影響を把握するため、野生動植物への放射線の影響を調査するとともに、関係機関や専門家と連携しながら情報収集に努める。 <達成手段の目標> 放射線による自然生態系への影響把握 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 野生動植物への放射線影響に関する調査、関係機関等との連携や情報収集を実施することにより、放射線による自然生態系への影響を把握することができ、これにより復興に寄与する。	208(復興庁)
三陸復興国立公園等復興事業 (平成24年度)	1,671百万円 (1,442百万円)	1,213百万円 (1,035百万円)	1,363百万円 (924百万円)	859百万円	2	<達成手段の概要> 安全・安心の観点から津波対策等の防災機能を強化しつつ、国立公園の集団施設地区、歩道等及び東北太平洋岸自然歩道の利用拠点等において、被災した既存利用施設の復旧整備や、観光地の再生に資する復興のための整備を行う。 <達成手段の目標> 三陸復興国立公園(平成25年度指定)における利用の回復・増進を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 当該事業を通じて、国立公園事業施設の復旧・復興を図ることで、国立公園の利用の回復・増進に寄与する。	210(復興庁)
旧警戒区域内等における鳥獣捕獲等緊急対策事業 (平成25年度)	30百万円 (29百万円)	72百万円 (70百万円)	90百万円 (66百万円)	192百万円	4	<達成手段の概要> 旧警戒区域内等において、イノシシ等野生鳥獣の捕獲等を実施する。 <達成手段の目標> 旧警戒区域内等のイノシシ等野生鳥獣の生息状況を把握し、効率的かつ安全な方法で捕獲等を実施することにより、個体数の削減と被害の軽減を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> イノシシ等野生鳥獣による農業被害や生活環境被害等の軽減を図ることによって、住民の帰還に向けた環境整備の円滑な実施に寄与する。	209(復興庁)
<b>施策の予算額・執行額</b>	2,233百万円 (1,886百万円)	1,866百万円 (1,599百万円)	2,058百万円 (1,522百万円)	1051百万円	<b>施策に関する内閣の重要政策</b> (施政方針演説等のうち主なもの)		